

Ⅱ 業 務 の 概 要

1 業務の概要

部	試 験 検 査 等	調 査 研 究 等
生活企画部	1 花粉症予防対策事業 2 公衆衛生情報の収集・解析・提供 3 山形県感染症発生動向調査事業 4 医薬品検査 5 家庭用品検査 6 食品中のアレルギー物質検査 7 温泉成分分析 8 排水検査 9 所報、衛研ニュースの編集・発行 10 研修等の企画調整	1 ヒスタミンによる食中毒防止のための研究
理化学部	1 食品中の残留農薬検査 2 畜水産食品中の残留有害物質モニタリング検査 3 水道水質検査の外部精度管理 4 環境放射能水準調査 5 放射性物質検査(環境及び食品)	1 中毒原因となる自然毒の多成分一斉分析法の開発
微生物部	1 感染症、食中毒発生時の病因探索 2 感染症流行予測調査事業 3 山形県感染症発生動向調査事業 4 C型肝炎抗体・B型肝炎抗原検査 5 後天性免疫不全症候群対策事業 6 結核感染診断のためのQFT検査 7 麻しん排除に向けた麻しん検査	1 山形県における <i>Mycoplasma pneumoniae</i> の疫学解析及び薬剤耐性遺伝子変異迅速検出系の確立 2 コロナウイルスの疫学研究 3 パレコウイルス3型の疫学研究
研修業務等	1 保健所試験検査担当職員研修会 2 衛生研究所業務報告会 3 インターンシップの受入	

2 生活企画部

1) 花粉症予防対策事業

平成 27 年の春に県内で飛散する花粉数を予測し、衛研ニュースや衛生研究所のホームページで情報提供した。

また、スギ花粉飛散シーズンの平成 27 年 2 月～5 月にかけて、県内 4 地点（庄内、最上、置賜の各保健所および衛生研究所）のダークラム型花粉捕集器で得られた日々のスギ・ヒノキ科花粉飛散数を衛生研究所と県医師会のホームページで公開し、日本気象協会東北支局等へ Fax 提供した（表 3）。

さらに、スギ花粉の飛散開始前から飛散開始初期（平成 27 年 2 月～3 月）にかけては、スギ花粉アレルゲン（Cry j 1）濃度について同ホームページで提供した。

平成 26 年 5 月～10 月には、春から秋にかけて飛散する種々の花粉症原因花粉の飛散状況について、衛生研究所および県医師会のホームページで週ごとに提供した。

2) 行政検査

① 医薬品

健康福祉企画課の依頼により、厚生労働省の指示に基づく医薬品等一斉監視指導における後発医薬品品質確保対策による収去試験を実施した（表 1）。

その結果、実施した項目において不適品はなかった。

表 1 医薬品収去試験（後発医薬品 溶出試験）

収去試験品目	件数	データ数
グリクラジド錠	6	36
合 計	6	36

② 家庭用品

家庭用品規制に係る監視指導要領に基づく試買試験を実施した（表 2）。

その結果、実施した項目において不適品はなかった。

表 2 家庭用品試買試験

試買試験品目	件数	検査項目	データ数
生後 24 ヶ月以下の乳幼児用の繊維製品	13	ホルムアルデヒド 有機水銀化合物	13 9
合 計	13		22

⑤ 食品中のアレルギー物質検査

食品安全衛生課の依頼により、県内で製造された加工食品のうち卵と落花生を原材料として含まない食品 10 検体についてアレルギー物質の検査を実施した。

その結果、すべての検体の検査結果は陰性であり、アレルギー物質（卵又は落花生）を含む旨の表示はなかった。

3) 公衆衛生情報の収集及び提供事業

学術雑誌等資料を年 11 回（No.252-262）作成し、保健所等県関係機関に配布した。これに対し保健所等から請求があった 61 件の文献を収集し提供した。

所報 No.47 を作成し、衛生研究所ホームページで公開した（表 4）。

No.40 までは印刷製本した所報を国内の専門情報機関及び関係研究機関等に配布していたが、No.41 からは PDF ファイルによる電子公開とした。

衛研ニュースを年 4 回（No.172-175）作成し、衛生研究所ホームページで公開した（表 5）。

No.171 までは印刷（外注）した衛研ニュースを国内の専門情報機関、関係研究機関及び県内の関係機関、教育機関等に配布していたが、No.172 からは PDF ファイルによる電子公開とした。

4) 図書及び資料等の収集管理

送付された報告書、雑誌、資料等の整理、学術雑誌の定期刊行物の製本（44 冊）を行った。

5) 職員研修（内容は「5 研修業務等」参照）

(1) 保健所試験検査担当職員の検査技術の向上を図るための技術研修を行った。

(2) 第 35 回山形県衛生研究所業務報告会を実施した。

表3 ダーラム法によるスギ・ヒノキ科花粉の調査結果(平成26年)

	山形市	新庄市	米沢市	三川町
初観測日	2月26日	2月21日	2月7日	2月7日
飛散開始日	2月28日	3月4日	2月28日	2月21日
飛散終了日	4月27日	5月8日	4月28日	5月21日
最大飛散日	3月22日	4月3日	4月3日	3月19日
最大飛散数(個/cm ²)	553	1,689	1,039	1,223
総飛散数(個/cm ²)	6,159	12,716	5,925	5,807
総飛散数の過去平均値(*) (個/cm ²)	3,173	3,396	3,223	4,031

* 過去平均値は、山形市は昭和58年～平成27年(n=33)、新庄市および米沢市は平成元年～27年(n=27)、三川町は平成12年～27年(n=16)の平均を示す。

表4 山形県衛生研究所報 No. 47

No.	題 名	著 者
1	山形県におけるマダニ分布調査・・・・・・・・・・・・・・・・	瀬戸 順次 他
2	食品中の放射性物質検査における検出下限値調査と最適測定条件の検討・・	笠原 翔悟 他
3	山形県の先天性代謝異常等のマス・スクリーニング検査の推移・・・・・・・・	安孫子 正敏 他
4	平成25年度先天性代謝異常等のマス・スクリーニング・・・・・・・・	最上 久美子 他

表5 衛研ニュース

No.	題 名	著 者
172	・ウイルス関連の研究成果が世界的な教科書で引用されました！ ・山形から世界に先駆けて報告した“パレコウイルス3型による成人の筋痛症”は山形だけの病気なのか？ ・薬になる植物(102) サフランについて	所 長 水田 克巳 所 長 水田 克巳 理 化 学 部 笠原 義正
173	・放射性物質検査における検出下限値について ・薬になる植物(103) サルトリイバラについて	理 化 学 部 笠原 翔悟 理 化 学 部 笠原 義正
174	・来年春に飛散するスギ花粉飛散数の予測 一例年の約1.5倍、飛散数の少なかった今春の3～4倍多く飛散する見込みー ・山形県におけるエンテロウイルス71型の20年以上に及ぶ発生動向調査 ・残留農薬検査の新たな方向性 ・薬になる植物(104) アミガサユリについて	生活企画部 最上 久美子 所 長 水田 克巳 理 化 学 部 山口 博子 理 化 学 部 笠原 義正
175	・調査研究により確認された山形県内のヒトコロナウイルス流行 ・食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価 ・薬になる植物(105) ツルドクダミについて	微 生 物 部 的場 洋平 理 化 学 部 齊藤 寿子 理 化 学 部 笠原 義正

◇ 感染症情報センター ◇

1) 山形県感染症発生動向調査

2014年第1週から第52週（2013年12月30日から2014年12月28日）までに県内の保健所に届出された疾病について、県内の感染症発生状況と病原体に関する情報を収集分析した。その結果を週報・月報として、関係機関（医療機関、保健所、教育庁等）にメール配信を行い、またホームページを通して広く情報を提供した。また、事業報告書（年報）を作成し、関係機関に配布した。

全数把握感染症は、16疾病317人の感染者が報告された（表1）。結核が175人と最も多く、置賜地区で人口当たりの報告数が多かった。腸管出血性大腸菌感染症は、37事例68人が報告され、うち3例20人は食中毒と断定された。アメーバ赤痢は、過去最多の報告数となった昨年に続き置賜地域を中心に多く報告された。また、エキノコックス症1人が1999年以降県内で初めて感染者が報告されたが、感染原因は不明である。なお、昨年全国的に大流行した風しんについては、県内では感染報告がなかった。

定点把握感染症（26疾病）では、A群溶血性レンサ球菌感染症と百日咳が過去10年間で最多の報告数となった。

インフルエンザの報告数は、2013-2014年季は全国より遅い流行で、迅速キットによる型別ではA型とB型が混在しており、特に村山地域では同時に流行した。

インフルエンザ、ヘルパンギーナは、流行期に県平均の定点当たり報告数が警戒レベルを上回ったため、県は警戒を発令し注意喚起を行った。

表1 全数把握感染症

No.	疾 病 名	報告数
1	結核	175
2	腸管出血性大腸菌感染症	68
3	E型肝炎	1
4	A型肝炎	2
5	エキノコックス症	1
6	つつが虫病	3
7	マラリア	1
8	レジオネラ症	18
9	レプトスピラ症	1
10	アメーバ赤痢	7
11	クロイツフェルト・ヤコブ病	1
12	後天性免疫不全症候群	2
13	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3
14	侵襲性肺炎球菌感染症	25
15	梅毒	8
16	破傷風	1
計		317

表2 定点把握感染症

No.	疾 病 名	報告数
1	インフルエンザ	17,205
2	RSウイルス感染症	1,161
3	咽頭結膜熱	885
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,258
5	感染性胃腸炎	11,712
6	水痘	1,648
7	手足口病	1,078
8	伝染性紅斑	238
9	突発性発しん	947
10	百日咳	32
11	ヘルパンギーナ	1,752
12	流行性耳下腺炎	592
13	急性出血性結膜炎	0
14	流行性角結膜炎	70
15	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	91
16	クラミジア肺炎	24
17	細菌性髄膜炎	5
18	マイコプラズマ肺炎	88
19	無菌性髄膜炎	13
20	性器クラミジア感染症	252
21	性器ヘルペスウィルス感染症	58
22	尖形コンジローマ	35
23	淋菌感染症	26
24	ペニシリン耐性肺炎感染症	23
25	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	299
26	薬剤耐性緑膿菌感染症	3
計		43,495

2) 病原体検出状況

県内の衛生研究所・保健所4施設・医療機関17施設の計22施設で検出した病原体数を月単位で検査材料別にご報告を受け、これらを集計し関係機関に提供した。衛生研究所および4保健所からの報告は57件（表3）あり、17医療機関からは20,979件の報告（表4）があった。

表3 病原体検出状況（衛生研究所・保健所）

病原体	検出数
E.coli 腸管出血性(EHEC/VTEC)	31
E.coli 腸管病原性(EPEC)	4
Salmonella 04	1
Salmonella 07	2
Salmonella 08	1
Salmonella 09	1
Salmonella 群不明	1
Yersinia enterocolitica	3
Staphylococcus aureus	1
Bacillus cereus	2
Legionella pneumophila	4
Leptospira spp.	1
Mycoplasma pneumoniae	5
計	57

（検査材料：ヒト由来のみ）

表4 病原体検出状況(協力医療機関17ヶ所)

病原体 菌種・群・型	検査材料別 検出数								合計
	糞便	喀痰	咽頭	穿刺液	髄液	血液	尿	陰部	
Escherichia coli 腸管出血性(EHEC/VTEC)	36								36
Escherichia coli 腸管毒素性(ETEC)	7								7
Escherichia coli 腸管病原性(EPEC)	5								5
Escherichia coli 他の下痢原性	70								70
Salmonella Typhi						5			5
Salmonella O4	22								22
Salmonella O7	7								7
Salmonella O8	5								5
Salmonella O9	4								4
Salmonella 群不明	1								1
Listeria monocytogenes						1			1
Yersinia enterocolitica	13								13
Yersinia pseudotuberculosis	3								3
Aeromonas hydrophila	9								9
Aeromonas sobria	1								1
Aeromonas hydrophila/sobria 種別せず	2								2
Plesiomonas shigelloides	3								3
Campylobacter jejuni	41								41
Campylobacter coli	3								3
Campylobacter jejuni/coli 種別せず	110								110
MRSA	105	1,259		16	2	57	162		1,601
Staphylococcus aureus(MRSA以外)	92	1,523		66	2	136	194		2,013
Cryptosporidium spp.	10								10
Escherichia coli				76	1	397	2,918		3,392
Klebsiella pneumoniae		1,215		31			547		1,793
Haemophilus influenzae		707	1,308	1		1			2,017
Pseudomonas aeruginosa		1,286		20		38	706		2,050
Staphylococcus, コアグラールゼ陰性				46		359	589		994
PRSP/PISP		159	99			3			261
Streptococcus pneumoniae (PRSP/PISP以外)		505	909	2	3	28			1,447
Anaerobes		121		74		50			245
Mycoplasma pneumoniae		2							2
Streptococcus B		399			1	21		788	1,209
Streptococcus A T6			3						3
Streptococcus A T25			1						1
Streptococcus A T28			1						1
Streptococcus A TB3264			1						1
Streptococcus A S.dysgalactiae subsp. equisimilis		1							1
Streptococcus A 型別せず		46	542						588
Enterobacter spp.							228		228
Acinetobacter spp.							56		56
Enterococcus spp.							1,335		1,335
Candida albicans							192	617	809
Mycobacterium tuberculosis		78							78
Mycobacterium avium - intracellulare complex		480							480
Legionella pneumophila		4							4
Neisseria gonorrhoeae								6	6
Chlamydia trachomatis								3	3
Trichomonas vaginalis								1	1
合 計	549	7,785	2,864	332	9	1,096	6,927	1,415	20,977

3 理化学部

1) 行政検査

(1) 食品部門

① 農産物検査

食品安全衛生課の依頼により、県内に流通する農産物について残留農薬検査を実施した(表 1)。

その結果、残留基準を超えた農産物はなかった。

② 冷凍加工野菜検査

食品安全衛生課の依頼により、県内に流通する冷凍加工野菜について残留農薬検査を実施した(表 2)。

その結果、農薬は検出されなかった。

③ 残留動物用医薬品検査

食品安全衛生課の依頼により、県内産畜水産食品の残留有害物質のモニタリング検査として、はちみつ、鶏卵、養殖魚、生乳、食鳥肉に残留する抗生物質、合成抗菌剤及び内寄生虫用剤を検査した(表 3)。

その結果、残留基準を超えたものはなかった。

④ 山形県放射性物質検査(食品)

2011 年 3 月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、山形県広域支援対策本部の依頼により、県産農畜水産物 132 検体、流通食品 125 検体、学校給食食材 160 検体、児童福祉施設給食 46 検体、水道水 50 検体の放射性物質検査を行った(表 4)。

その結果、基準値を超えて検出された人工放射性物質はなかった。

(2) 環境部門

① 環境放射能水準調査

全国の環境放射能水準調査の一環として原子力規制庁の依頼により県内の降水、大気浮遊じん、降下物、陸水(蛇口水)、海産生物及び空間線量率について調査を実施した。

定時降水試料(雨水)中の全 β 放射能調査結果を表 5 に、ゲルマニウム半導体検出器による核種分析測定調査結果を表 6 に、また、空間放射線量率測定結果を表 7 に示した。

② 山形県放射性物質検査(環境)

週間降下物 51 検体について調査を実施した。その結果、人工放射性物質は検出されなかった。

2) 調査研究

(1) 中毒原因となる自然毒の多成分一斉分析法の開発 (所経常研究 H. 25~26)

ジャガイモの毒であるグリコアルカロイド(α -ソラニ

ン、 α -チャコニン)について、LC-MS/MSを用いた分析を可能にした。5 種類の有毒植物(スイセン、トリカブト、チョウセンアサガオ、バイケイソウ、ジャガイモ)の毒成分計 14 種類を同時に一斉分析できる方法を確立した。

また、一部の毒キノコの毒成分についても標準品を用いた分析方法の検討を行った。

3) 外部精度管理

(1) 平成 26 年度食品衛生外部精度管理調査(参加)

平成 26 年 10 月、11 月に(財)食品薬品安全センターが実施した鶏肉ペースト中の残留動物用医薬品検査及びとうもろこしペースト中の残留農薬検査に参加した。

表1 平成26年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (1/3)

単位 : ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	だい こん	ほう れん そう	すも も	たま ねぎ	ブ ロ ツ コ リ ー	ば れ い し ょ	こ ま つ な	か き	は く さ い
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
EPN	N. D	—	N. D	N. D	N. D	—	—	N. D	—
XMC	—	N. D	N. D	—	—	N. D	N. D	N. D	N. D
アクリナトリン	N. D	N. D	—	N. D	N. D	—	N. D	—	N. D
アセトクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アセフェート	—	—	—	—	N. D	—	—	—	—
アトラジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アエロホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アラクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イソキサチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イソプロカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イソプロチオラン	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D	—
イブロベンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イミタクロプリト	—	—	—	—	—	—	N. D～0.03 (1)	—	—
エスプロカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エタルフルレリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エチイフェンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エトキサロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エトフェンプロックス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エントスルファン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
オキサジメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
オキサジメチル	—	N. D	N. D	—	—	N. D	N. D	N. D	N. D
オキシフルオルフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
カルハル	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
キナルホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
キノキシフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
キノクラミン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D
キントゼン	N. D	N. D	—	N. D	N. D	—	N. D	—	N. D
クレソキシメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロチアジン	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
クロタルジメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルピリホス	N. D	N. D	N. D～0.03 (1)	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルピリホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルフェナピル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルフェンピンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルプロファム	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルベンジレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シアナジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シアノホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジエトフェンカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロシメット	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D
ジクロフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロホップメチル	—	N. D	—	—	—	N. D	N. D	—	N. D
ジクロラン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シハトリリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シハロホップメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジフェナミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジフェノコナゾール	—	N. D	N. D	—	—	N. D	N. D	N. D	N. D
シフルトリリン	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
ジフルベンスロン	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
シプロコナゾール	N. D	N. D	—	N. D	N. D	—	N. D	—	N. D
シベメトリリン	N. D	N. D～0.33 (2)	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D～0.28 (4)	N. D	N. D

N. D : 検出せず () 内は検出データ数

表1 平成26年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (2/3)

単位: ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	だい こん	ほう れん そう	すも も	たま ね ぎ	ブ ロ ッ コ リ ー	ば れ い し ょ	こ ま つ な	か き	は く さ い
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
シマジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメタメトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメナミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメトエート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シメトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメビヘレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ダイジノン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
チアトキサム	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
チオヘンカルブ	—	N. D	N. D	—	—	N. D	N. D	N. D	N. D
テトラクロルピホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テトラコナゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テトラジホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テニルコロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テブコナゾール	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D～0.09 (2)	—
テブフェノジト	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
テブフェンビラト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テフルトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
デルタメトリン及びトラロメトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
デルブトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリアジメホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリアレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリブホス	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
トリフルラリン	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
トリフロキシストロビン	—	—	N. D	—	—	N. D	—	N. D	—
トルクロホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ナブロバミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ニトロタールイソプロピル	—	N. D	N. D	—	—	N. D	N. D	N. D	N. D
バクロブトラゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
バラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D
バラチオンメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ハルフェンプロックス	N. D	N. D	—	N. D	N. D	—	N. D	—	N. D
ビフェントリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビヘロホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビラクロホス	—	N. D	—	—	—	N. D	N. D	—	N. D
ビラゾホス	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
ビラフルフェンエチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリダフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリダベン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリブチカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリブロキシフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリミノハックメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリミホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリメタニル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D
ビロキロン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビンクロソリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェナリモル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェニトロチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェノチオカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェノブカルブ	—	—	—	—	—	—	N. D	—	—
フェンシルホチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェントエート	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
フェンバレレート	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D
フェンブコナゾール	N. D	N. D	N. D～0.02 (1)	N. D	N. D	—	N. D	N. D	N. D
フェンブロバトリン	N. D	—	N. D	N. D	N. D	N. D	—	N. D～0.02 (1)	—

N. D: 検出せず ()内は検出データ数

表1 平成26年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (3/3)

単位：ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	だい い こん	ほう れん そう	す も も	たま ね ぎ	ブ ロ ッ コ リ ー	ば れ い し ょ	こ ま つ な	か き	は く さ い
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
フェンプロピルモルフ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フサイト	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
ブタクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブタミホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブピリメート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブプロフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フルアクリリム	－	N. D	N. D	－	－	N. D	N. D	N. D	N. D
フルキンコナゾール	－	N. D	－	－	－	N. D	N. D	－	N. D
フルシトリーネート	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
フルラニル	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
フルハリーネート	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
フルフェノクスロン	－	－	－	－	－	－	N. D～0. 47 (1)	－	－
フルミオキサジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フルリドン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D
ブレチアクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロシミドン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロチオホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロバクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロバジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロバニル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロバルキネット	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロビコナゾール	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D	－
ブロビザミド	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロフェノホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロボキスル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロマシル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロメトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロモブロピレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブロモホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ヘキサコナゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ヘナラキシル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ヘノキサコール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ベルメトリン	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D～0. 05 (1)	－	N. D
ベンコナゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ベンテイメタリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ベンフルラリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ベンフレセート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ホサロン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D
ホスチアセート	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D～0. 02 (1)	－	N. D
ホスファミドン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D
マラチオン	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
ミクロブタニル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メタミトホス	－	－	－	－	N. D	－	－	－	－
メタラキシル及びメフェノキサム	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メチタチオン	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D	－
メトキシクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メトラクロール	N. D	N. D	－	N. D	N. D	N. D	N. D	－	N. D
メフェナセート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メフェンピルジエチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メブロニル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ルフェスロン	－	－	－	－	－	－	N. D	－	－
データ数	1360	1390	1250	1360	1380	1330	1480	1250	1390
検出されたデータ数	0	2	2	0	0	0	8	3	0
基準値を超えたデータ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N. D：検出せず ()内は検出データ数

表 2 冷凍加工野菜の残留農薬検査結果

検査対象 検査項目	さと いも	ブ ロッ コ リ	い ん げ ん	ほ う れ ん そ う
	3 検体	2 検体	4 検体	1 検体
E P N	N. D	N. D	N. D	N. D
アセフェート	N. D	N. D	N. D	N. D
エチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
キナルホス	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルピリホス	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルフェンビンホス	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメトエート	N. D	N. D	N. D	N. D
ダイアジノン	N. D	N. D	N. D	N. D
トルクロホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D
パラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
パラチオンメチル	N. D	N. D	N. D	N. D
ピリダフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
ピリミホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D
フェントロチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
フェントエート	N. D	N. D	N. D	N. D
ブタミホス	N. D	N. D	N. D	N. D
プロチオホス	N. D	N. D	N. D	N. D
プロフェノホス	N. D	N. D	N. D	N. D
ホサロン	N. D	N. D	N. D	N. D
ホスチアゼート	N. D	N. D	N. D	N. D
マラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
メタミドホス	N. D	N. D	N. D	N. D
メチダチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
エディフェンホス	N. D	N. D	N. D	N. D
エトリムホス	N. D	N. D	N. D	N. D
カズサホス	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロルボス	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメチルビンホス	N. D	N. D	N. D	N. D
ホスメット	N. D	N. D	N. D	N. D
ホルモチオン	N. D	N. D	N. D	N. D
データ数	93	62	124	31

N. D : 検出せず

表 3 残留動物用医薬品検査結果

検査対象 検査項目	は ち み つ	養 殖 魚	生 乳	鶏 卵	食 鳥 肉
	6 検体	11 検体	7 検体	12 検体	4 検体
抗生 物質	オキシテトラサイクリン	N. D (注)	N. D	N. D	N. D
	クロルテトラサイクリン				
	テトラサイクリン				
合 成 抗 菌 剤	オキシリニック酸	N. D	N. D	N. D	N. D
	オルメトプリム	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファキノキサリン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファクロルピリダジン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファジアジン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファジミジン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファジメトキシシン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファメトキサゾール	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファメラジン	N. D	N. D	N. D	N. D
	スルファモノメトキシシン	N. D	N. D	N. D	N. D
	トリメトプリム	N. D	N. D	N. D	N. D
内寄生 虫用剤	フルベンダゾール	N. D	N. D	N. D	N. D
データ数		6	88	77	144
		44			

N. D : 検出せず

(注)養殖魚はオキシテトラサイクリンのみ

表 4 山形県放射性物質検査結果（食品）

試料 分類	件 数	放射能 (Bq/kg)					
		I-131		Cs-134		Cs-137	
		最 低 値	最 高 値	最 低 値	最 高 値	最 低 値	最 高 値
農畜水産物	132	—	N. D	—	N. D	—	N. D
流通食品	125	—	N. D	—	N. D	—	N. D
給食食材	160	—	N. D	—	N. D	—	N. D
児童福祉 施設給食	46	—	N. D	—	N. D	—	N. D
水道水	50	—	N. D	—	N. D	—	N. D

N. D : 検出限界以下

— : 最高値 N. D の場合、最低値なし

表 5 定時降水試料中の全 β 放射能調査結果

採取年月	降水量 (mm)	測定数	放射能 (Bq/L)		月間降水量 (MBq/km ²)
			最低値	最高値	
平成 26 年	4 月	34.0	4	—	N. D
	5 月	73.5	11	—	N. D
	6 月	83.5	8	—	N. D
	7 月	168.0	11	—	N. D
	8 月	157.5	7	—	N. D
	9 月	27.0	4	—	N. D
	10 月	172.5	8	—	N. D
	11 月	70.5	10	—	N. D
	12 月	232.5	15	—	N. D
平成 27 年	1 月	60.5	9	—	N. D
	2 月	71.5	7	—	N. D
	3 月	93.5	12	—	N. D
年 間 値		1244.5	106	—	N. D

N. D : 検出限界以下

— : 最高値 N. D の場合、最低値なし

表 6 核種分析測定調査結果

試料名	採取地	件数	I-131		Cs-134		Cs-137		単 位
			最低値	最高値	最低値	最高値	最停値	最高値	
大気 浮遊じん	山形市	4	—	N. D	—	N. D	—	N. D	mBq/m ³
降 下 物	山形市	12	—	N. D	0.054	1.4	0.23	3.8	MBq/km ²
陸水 (蛇口水)	山形市	5	—	N. D	N. D	0.89	1.4	2.6	mBq/L
海産生物	サザエ 酒田市	1	—	N. D	—	N. D	—	N. D	Bq/kg生
	ワカメ 酒田市	1	—	N. D	—	N. D	—	N. D	

N. D : 検出限界以下

— : 最高値 N. D の場合、最低値なし

表 7 空間線量率測定結果

測定年月		モニタリングポスト(nGy/h)			サーベイメータ (nGy/h)
		最低値	最高値	平均値	
平成 26 年	4 月	45	55	47	40
	5 月	45	61	47	50
	6 月	45	53	47	40
	7 月	45	60	47	50
	8 月	45	64	47	50
	9 月	45	56	47	50
	10 月	45	60	47	40
	11 月	44	64	47	40
	12 月	39	75	47	50
平成 27 年	1 月	37	59	40	50
	2 月	37	67	42	40
	3 月	44	61	46	40
年間値		37	75	46	40～50

4 微生物部

◇ 細菌部門 ◇

1) 一般依頼検査

有料である一般依頼検査では、原虫・寄生虫検査として、水道事業者からの依頼により水道水中のクリプトスポリジウム及びジアルジアの検査を17件行った。血液検査として、医療機関からの依頼によりツツガムシ病の血液検査を11人について行い、2人のツツガムシ病患者が確認された。（表1）

表1 一般依頼検査

検査項目	検体数	データ数
(1) 原虫・寄生虫検査 クリプトスポリジウム・ジアルジア	17	34
(2) 血液検査 つつが虫病血液検査	11	40
合 計	28	74

2) 行政検査

県保健業務課からの依頼による感染症及び感染症発生動向調査事業に係る検査、並びに県食品安全衛生課からの依頼による食中毒に係る検査を行った（表2）。

(1) 感染症対策事業

腸管出血性大腸菌等の精査（性状，病原因子確認，DNA 型別）が54件あった。

(2) 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業として、レジオネラ症，マイコプラズマ肺炎，ライム病，Q熱，レプトスピラ症，マラリア，ジフテリア等が疑われるものについて病原学的検査を行った。

(3) 後天性免疫不全症候群対策

後天性免疫不全症候群対策の一環として性器クラミジア感染症血液検査を行った。検査を希望する人を対象に保健所で採血が行われた。340人の検査を行い、50人が陽性であった。

(4) 結核予防対策

結核予防対策の一環として接触者等におけるインターフェロンガンマ遊離試験（QFT 検査）を実施した。また，感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第15条の規定による積極的疫学調査の一環として，結核菌反復配列多型（VNTR）分析を実施した。

(5) 三類感染症発生状況

腸管出血性大腸菌感染症では，68人の感染者が確認された。

3) 調査研究

(1) 山形県における *Mycoplasma pneumoniae* の疫学解析及び薬剤耐性遺伝子変異迅速検出系の確立

山形県で分離された肺炎マイコプラズマの疫学解析を実施した。さらに，臨床検体から薬剤耐性遺伝子変異を直接検出する系を検討した。

(2) 病原体解析手法の高度化による効率的な食品由来感染症探知システムの構築に関する研究（厚生労働科学研究費補助金，新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業，研究代表者 泉谷秀昌）

分担研究として秋田県健康環境センター熊谷優子氏の協力研究を行った。

表2 行政検査

検査項目	検査内容	検体数	データ数
(1) 感染症予防対策事業	菌株精査(病原因子, DNA 型別等)	85	94
(2) 感染症発生動向調査事業	A 群溶レン菌, レジオネラ症等	116	254
(3) 後天性免疫不全症候群対策	性器クラミジア	340	680
(4) 結核予防対策	結核菌インターフェロンガンマ遊離試験 反復配列多型 (VNTR) 分析	1241 100	1241 2400
合 計		1882	4669

◇ウイルス部門◇

1) 行政依頼検査

(1) 防疫対策事業

2014/2015 シーズンのインフルエンザの流行を予測するため、県内在住の 372 名の血清 HI 抗体価を測定した。AH1pdm2009 (2009 年の新型) の A/カリフォルニア/7/2009(H1pdm) に対する抗体保有率 (1:40 以上) は、36.4~85.7%であった。A 香港の A/ニューヨーク/39/2012 に対する抗体保有率は 77.4~100%と比較的高くなっていた。B/マサチューセッツ/2/2012 (山形系統) に対する抗体保有率は、19.5~100%であった。B/ブリスベン/60/2008(ビクトリア系統)については、

2.4~71.4%の抗体保有率であった。その他、206 名、214 名の皆様にご協力いただき、それぞれ麻疹、ポリオウイルスに対する抗体保有状況調査を実施した。結果は衛生研究所微生物部ホームページを参照。

(2) 感染症発生動向調査事業

検査定点等から送付された、上気道炎由来、胃腸炎由来、眼科疾患由来、神経系疾患由来など 2094 検体についてウイルス検査を実施した。検査は細胞培養によるウイルス分離と一部 PCR 法による遺伝子検出により行い、アデノウイルス 95 株、インフルエンザ 174 株などが分離または検出された (表)。

表 臨床診断別ウイルス分離・検出数 (平成 26 年度)

診 断 名	アデノウイルス					インフルエンザウイルス					RS	hMPV	パラインフルエンザウイルス			
	1	2	3	5	54	AH1pdm09	AH3	BY	BV	C			Para1	Para2	Para3	Para4
インフルエンザ						9	102	27	2							
上気道炎	12	14	39	4		2	4	4		17	20	46	30	16	46	6
下気道炎		4	1	1				1		3	2	15	4	4	17	
ヘルパンギーナ		2	2							1			2	2	3	
手足口病			1													
ウイルス性発疹	1												1	1	1	
流行性耳下腺炎	1														1	
流行性角結膜炎			4		1											
ウイルス性髄膜炎														1		
麻疹・風疹																
脳炎・脳症																
感染性胃腸炎	1	1								1			2		1	
その他		2	4					1				2		3	3	1
合 計	15	23	51	5	1	11	106	33	2	22	22	63	39	27	72	7

診 断 名	ピコルナウイルス																
	CoxA4	CoxA5	CoxA9	CoxA10	CoxA16	CoxB2	CoxB3	CoxB5	Echo3	Echo11	Echo18	Echo30	Cardio	Parecho1	Parecho2	Rhino	
インフルエンザ																	
上気道炎	36	1	1	2	2	1	20	1	1	28	1			5	9	24	
下気道炎	3					1	2	2	1	2				2	2	6	
ヘルパンギーナ	40			51			4			1						10	2
手足口病					9					1							
ウイルス性発疹	2		3							3				1		3	4
流行性耳下腺炎											1					1	
流行性角結膜炎																	
ウイルス性髄膜炎	1									2		4					
麻疹・風疹	1																
脳炎・脳症																	
感染性胃腸炎	1									4	1			1			
その他	4					1	2	1		4		2		1	13	4	
合 計	88	1	4	53	11	3	28	4	2	45	3	6	1	9	38	40	

診 断 名	Mumps	サイトメガロ	ヘルペス	コロナウイルス			ノロ	合 計
				229E	NL63	OC43	G2	
インフルエンザ								140
上気道炎		28	9	2	25	8		462
下気道炎		2			4			79
ヘルパンギーナ		2	1	1	2			77
手足口病								11
ウイルス性発疹		1			1			22
流行性耳下腺炎								4
流行性角結膜炎								4
ウイルス性髄膜炎								8
麻疹・風疹								1
脳炎・脳症								0
感染性胃腸炎	1	1		1				16
その他		3	2	1			1	55
合 計	1	37	12	5	32	8	1	879

(3) 後天性免疫不全症候群（HIV）確認検査

HIV-1 型と HIV-2 型の確認検査を 1 件実施し、陽性はなかった。

(4) クラミジア抗体検査

340 件の検査を実施し、50 検体が陽性であった。

(5) C 型肝炎ウイルス抗体検査

395 件実施し、2 検体が抗体強力価（1:4096 倍以上）であった。

(6) B 型肝炎ウイルス抗体検査

406 件の検査を実施し、1 検体が陽性であった。

(7) 食中毒関連検査

ウイルス起因疑いの食中毒（様）事件の患者便とウイルス性感染性胃腸炎疑いの集団発生例について Norovirus (NV) の検査を行った。その結果、31 事例において患者糞便等 298 検体中 154 検体から NV 遺伝子が検出された。

2) 調査研究

(1) 麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートする実験室検査に関する研究（平成 25～27 年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業）

(2) エンテロウイルス 71 型の分子疫学研究（平成 26 年度東北乳酸菌研究会）

(3) コロナウイルスの疫学研究（平成 27～29 年度）などを実施した。

3) 発生動向調査及び血清疫学調査のデータ還元

県内のウイルス感染症流行状況のデータを県民の皆様・医療機関に還元し、また県民の皆様の感染症に対する関心を高めるために、毎週、ウイルス検出情報、地区別インフルエンザウイルス検出状況（流行時のみ）を更新した。

5 研修業務等

1) 平成 26 年度保健所試験検査担当職員研修会

研修目的：保健所で行う試験検査等に必要な技術及び知識等の習得と検査精度の向上を目的とする。

＜課題研修＞

- ・開催日：平成 26 年 6 月 4 日～6 月 6 日
- ・参加者：17 名
- ・研修内容

理化学関係実習

1. 理化学検査の技能評価に関すること
2. 理化学分析の基礎に関すること
3. 放射性物質検査に関すること

微生物関係実習

1. 病原体取扱いの基礎習得
2. 三類感染症病原体（腸管出血性大腸菌，赤痢菌，コレラ菌）の検査法
3. 遺伝子検出法の習得

業務検討会

1. クロモアガー-STEC をスクリーニング培地として用いた検便検査について
2. やまがた樹氷国体に係る宿泊施設等のふき取り検査結果について
3. 食中毒菌汚染実態調査について

2) 第 35 回山形県衛生研究所業務報告会

- ・開催日：平成 27 年 2 月 27 日

理化学部

- ・平成 26 年度県内流通農産物等残留農薬検査結果について 千島 克隆
- ・ドリン系及び DDT 農薬検査にかかる GC-MS 測定 of 検討 山口 博子
- ・かきにおけるテブコナゾールの消長 萬年美穂子

- ・農薬シマジンの検出が疑われた事例

齊藤 寿子

- ・動物用医薬品一斉試験法における妥当性評価

須貝 裕子

- ・中毒原因となる自然毒の多成分一斉分析法の開発

笠原 翔悟

- ・ツキヨタケ食中毒による健康被害防止のための毒性研究

大河原 龍馬

- ・栽培したトリカブト属植物のアコニチン類に関する考察

長岡 由香

- ・ヒスタミンによる食中毒防止のための研究

－LC-MS/MS を用いた魚肉中アミン類の迅速分析法検討－

佐藤 陽子

微生物部

- ・2013 年山形県におけるサフォードウイルスの流行状況

青木 洋子

- ・山形県におけるコロナウイルスの検出状況

的場 洋平

- ・2014 年山形県における C 型インフルエンザウイルスの分離状況

田中 静佳

- ・山形県におけるマダニ分布調査

瀬戸 順次

- ・リアルタイム PCR を用いた *Mycoplasma pneumoniae* マクロライド耐性遺伝子変異迅速検出系の確立

鈴木 裕

生活企画部

- ・ヒスタミンによる食中毒防止のための研究－分析法比較と産生阻害スクリーニング法の検討－

太田 康介

- ・山形県における 2014 年のスギ花粉飛散状況と今シーズンの飛散予測

酒井 真紀子

- ・山形県における 2014 年の感染症発生動向

最上 久美子

3) インターンシップの受入

(1) 山形大学医学部医学科

公衆衛生学講座 4 年生 5 名

期間：平成 26 年 6 月 3 日

実習内容：

- ・感染症対策について
- ・ノロウイルス検査の概要
- ・検査室の見学

(2) 山形大学理工学研究科生物学専攻 1 年生 2 名

山形大学理学部生物学科 3 年生 1 名 計 3 名

期間：平成 26 年 8 月 4 日～8 日

実習内容：

- ・理化学部の研修内容
 - 食品残留農薬検査
 - 食品成分及び自然毒
 - 食品中残留放射能検査
- ・生活企画部の研修内容
 - 花粉症予防対策事業
 - 医薬品・アレルギー物質検査
 - 感染症発生動向調査
- ・微生物部の研修内容
 - 教育訓練
 - 感染症，細菌，ウイルス
- ・若手研究員との意見交換

(3) 北里大学獣医学部獣医学科 4 年生 1 名

酪農学園大学 5 年生 2 名 計 3 名

期間：平成 26 年 9 月 4 日

実習内容：

- ・残留農薬検査，放射性物質検査について
- ・感染症検査について
- ・感染症発生動向調査について

6 年間動向

1) 会議・検討会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 6 月	平成 26 年度全国地方衛生研究所長会議	東 京 都	土田達朗
2014 年 6 月	東北食中毒研究会幹事会	仙 台 市	矢作一枝
2014 年 7 月	第 1 回研究評価委員会	山 形 市	笠原義正 他 3 名
2014 年 7 月	平成 26 年度地方衛生研究所全国協議会 北海道・東北・新潟 支部総会	新 潟 市	水田克巳・青木洋子
2014 年 8 月	平成 26 年度地域保健総合推進事業第 1 回地方衛生研究所地域 ブロック会議	仙 台 市	土田達朗
2014 年 8 月	温泉分析法指針（平成 26 年改訂）説明会	東 京 都	太田康介
2014 年 8 月	温泉法に基づく揭示等の基準改定の対応と打ち合わせ	山 形 市	太田康介
2014 年 9 月	東北食中毒研究会幹事会第 27 回全体会議及び研修会	秋 田 県 秋 田 市	矢作一枝
2014 年 9 月	紅花振興連絡会議	山 形 市	笠原義正・長岡由香
2014 年 10 月	平成 26 年度地方衛生研究所全国協議会 北海道・東北・新潟 支部 衛生化学研究部会総会	青 森 県 青 森 市	齊藤寿子・長岡由香
2014 年 10 月	平成 26 年度地域ブロック理化学部門専門家会議	青 森 県 青 森 市	笠原翔悟
2014 年 11 月	平成 26 年度第 65 回地方衛生研究所全国協議会総会	栃 木 県 宇 都 宮 市	水田克巳
2014 年 11 月	平成 26 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究 会	和 歌 山 県 和 歌 山 市	笠原義正・太田康介
2014 年 11 月	山形県理化学分析センター平成 26 年度第 2 回定時理事会	山 形 市	水田克巳
2014 年 11 月	平成 26 年度「地域保健総合推進事業」全国疫学情報ネットワー ク構築会議	東 京 都	酒井真紀子
2014 年 11 月	第 2 回研究評価委員会	山 形 市	酒井真紀子
2014 年 12 月	平成 26 年度地域保健総合推進事業第 2 回地方衛生研究所地域 ブロック会議	仙 台 市	水田克巳
2015 年 1 月	第 28 回公衆衛生情報研究協議会・研究会および関連会議	栃 木 県 宇 都 宮 市	最上久美子
2015 年 2 月	平成 26 年度狂犬病予防業務担当者会議	東 京 都	瀬戸順次
2015 年 3 月	山形県理化学分析センター平成 26 年度第 3 回定時理事会	山 形 市	水田克巳
2015 年 3 月	平成 26 年度放射線監視結果収集調査検討会	東 京 都	大河原龍馬・笠原龍馬

2) 学会・研究会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 5 月	第 89 回日本結核病学会	岐 阜 県 岐 阜 市	瀬戸順次
2014 年 5 月	第 107 回日本食品衛生学会学術講演会	東 京 都	笠原義正
2014 年 5 月	第 20 回日本食品化学会総会・学術大会	東 京 都	笠原義正

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 6 月	第 55 回日本臨床ウイルス学会	札 幌 市	水田克巳・青木洋子
2014 年 6 月	結核菌分子疫学および実地疫学に関する研究打ち合わせ	長 崎 県 長 崎 市	瀬戸順次
2014 年 6 月	衛生微生物技術協議会第 35 回研究会・総会	東 京 都	矢作一枝・田中静佳
2014 年 7 月	平成 26 年度東北乳酸菌研究会総会	仙 台 市	水田克巳
2014 年 8 月	第 68 回日本細菌学会東北支部総会	仙 台 市	水田克巳・鈴木裕
2014 年 9 月	厚生労働省科学研究 麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査にかかる研究班会議	東 京 都	青木洋子
2014 年 10 月	第 37 回農薬残留分析研究会	仙 台 市	齊藤寿子・萬年美穂子・山口博子
2014 年 10 月	平成 26 年度東北地区獣医師大会	仙 台 市	瀬戸順次
2014 年 10 月	第 35 回山形県医学検査学会	長 井 市	田中静佳・鈴木裕
2014 年 10 月	第 63 回日本感染症学会東日本地方総会学術集会	東 京 都	鈴木裕
2014 年 10 月	日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム	東 京 都	矢作一枝
2014 年 12 月	厚生労働省科学研究 病原体サーベイランスに関する意見交換会議	東 京 都	青木洋子
2014 年 12 月	第 21 回リッチケア研究会	東 京 都	瀬戸順次
2015 年 1 月	平成 26 年度厚生労働省科学特別研究事業 科学的根拠に基づく病原体サーベイランス手法の標準化に関する緊急研究検討会	東 京 都	水田克巳
2015 年 1 月	第 26 回日本臨床微生物学会総会・学術集会	東 京 都	田中静佳・鈴木裕
2015 年 1 月	平成 26 年度結核講演会	山 形 市	瀬戸順次
2015 年 2 月	第 284 回液体クロマトグラフィー研究懇談会	東 京 都	太田康介
2015 年 2 月	医薬品品質フォーラムシンポジウム	東 京 都	安孫子正敏
2015 年 2 月	平成 26 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会	岡 山 市	矢作一枝・的場洋平
2015 年 2 月	厚生労働省科学研究 麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査にかかる研究班会議	大 阪 市	青木洋子
2015 年 3 月	第 90 回日本結核病学会総会	長 崎 県 長 崎 市	瀬戸順次
2015 年 3 月	第 41 回山形県公衆衛生学会	山 形 市	水田克巳 他 14 名

3) 研修会・講習会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 4 月	PIC/S 教育訓練	山 形 市	安孫子正敏・酒井真紀子
2014 年 5 月	病原体包装運搬講習会	東 京 都	的場洋平
2014 年 6 月	Agilent 6890GC/MSD オペレーション基礎講座	横 浜 市	山口博子
2014 年 6 月	防火管理資格講習	山 形 市	土田達朗
2014 年 7 月	第 57 回山形県獣医技術研修会	山 形 市	瀬戸順次・的場洋平
2014 年 7 月	山形県獣医師会主催産業動物講習会	山 形 市	的場洋平
2014 年 7 月	結核対策と QFT の有効性について (QFT セミナー)	仙 台 市	瀬戸順次・田中静佳

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 7 月	環境放射能分析・測定的基础	千 葉 市	大河原龍馬
2014 年 9 月	ナルセフォーラム 2014 (PIC/S 関係セミナー)	山 形 市	酒井真紀子・太田康介
2014 年 9 月	平成 26 年度バリデーション研修 (2) 試験検査	東 京 都	酒井真紀子
2014 年 9 月	統計専門研修	山 形 市	瀬戸順次・太田康介
2014 年 10 月	平成 26 年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	東 京 都	萬年美穂子
2014 年 10 月	PCR 研修	神 奈 川 県 厚 木 市	最上久美子
2014 年 10 月	平成 26 年度国立保健医療科学院ウイルス研修	東 京 都 武蔵村山市	の場洋平
2014 年 11 月	環境測定分析レベルアップセミナー	山 形 市	千島克隆
2014 年 11 月	平成 26 年度動物由来感染症対策技術研修会	東 京 都	青木洋子
2015 年 1 月	平成 26 年度指定薬物分析研修会	東 京 都	酒井真紀子・太田康介
2015 年 1 月	食物アレルギー (特定原材料) 検査実技実習	東 京 都	最上久美子
2015 年 1 月	感染症危機管理研修	山 形 市	矢作一枝・瀬戸順次・の場洋平
2015 年 1 月	平成 26 年度残留農薬等研修会	東 京 都	千島克隆
2015 年 2 月	放射線・原子力災害対策研修会	山 形 市	大河原龍馬・笠原翔悟
2015 年 2 月	地方衛生研究所全国協議会衛生化学分野研修会	東 京 都	長岡由香・佐藤陽子・太田康介
2015 年 2 月	食品化学分野研究者育成セミナー	東 京 都	長岡由香・佐藤陽子・太田康介
2015 年 2 月	平成 26 年度希少感染症診断技術研修会	東 京 都	瀬戸順次・の場洋平
2015 年 2 月	山形県獣医師会公衆衛生講習会	山 形 市	水田克巳 他 3 名
2015 年 2 月	新型インフルエンザ等対策研修会	山 形 市	水田克巳 他 4 名
2015 年 3 月	医学系研究の倫理等に関する研修会	山 形 市	水田克巳 他 2 名

4) 講演等

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 4-7 月	山形大学地域教育文化学部講師	山 形 市	笠原義正
2014 年 6 月	公聴事案対応講師	山 辺 町	笠原義正
2014 年 6 月	日本大学生物資源科学部講師	神 奈 川 県 藤 沢 市	瀬戸順次
2014 年 6 月	北里大学獣医学部獣医学科講師	青 森 県 十 和 田 市	瀬戸順次
2014 年 7 月	山形市立第三中学校薬物乱用防止講話講師	山 形 市	笠原義正
2014 年 10 月	平成 26 年度最上地域新型インフルエンザ等対策研修会講師	新 庄 市	水田克巳
2014 年 10 月	第 47 回日本薬剤師会学術大会、分科会 8 感染制御講師	山 形 市	水田克巳
2014 年 10 月	第 13 回山形県科学技術奨励賞授与式及び特別講演	山 形 市	水田克巳 他 4 名
2014 年 10 月	酪農学園大学獣医学群講師	北 海 道 江 別 市	瀬戸順次

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2014 年 11 月	平成 26 年度村山地域感染症対策連絡会議（エボラ出血熱対策連絡会議）講師	山 形 市	水田克巳
2014 年 12 月	村山保健所衛生委員会研修会講師	山 形 市	水田克巳
2014 年 12 月	平成 26 年度佐賀県衛生薬業センター健康危機管理研修会講師	佐 賀 県 佐 賀 市	笠原義正
2015 年 2 月	平成 26 年度置賜地域新型インフルエンザ等研修会講師	米 沢 市	水田克巳
2015 年 3 月	第 20 回国際結核セミナー講師	東 京 都	瀬戸順次
2015 年 3 月	平成 26 年度村山保健所管内検査担当者研修会講師	山 形 市	水田克巳
2015 年 3 月	平成 26 年度山形県学校薬剤師会研修会講師	山 形 市	笠原義正

5) 表彰等

年 月	名 称	開 催 地	受 賞 者
2014 年 7 月	地方衛生研究所全国協議会支部長表彰	新 潟 市	青木洋子
2014 年 10 月	第 13 回山形県科学技術奨励賞受賞	山 形 市	水田克巳
2015 年 3 月	平成 26 年度日本結核病学会研究奨励賞受賞	長 崎 県 長 崎 市	瀬戸順次